

第7日

令和8年3月3日（火）

午後2時10分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、15番大庭きみ子議員の質問を許可します。15番大庭きみ子議員。

（15番大庭きみ子君登壇）

○15番（大庭きみ子君） 皆様、こんにちは。15番大庭きみ子でございます。本日は、お忙しい中に議会傍聴においでいただきましてありがとうございます。また、インターネットで傍聴していただいております皆様、ありがとうございます。

新しい庁舎での初めての一般質問でございます。

また、3月は別れと出会いの月とも言われております。今年の3月で退職されます職員の皆様方、長い間、大変お疲れさまでした。退職されます職員の皆様方は、平成18年の市町村合併や平成29年の九州北部豪雨災害、そして甚大なる災害からの復旧・復興、またコロナ禍への対応など、想定外の多くの困難と一緒に乗り越えて、朝倉市の発展に甚大なる御尽力をしていただきまして本当にありがとうございました。今後とも健康に留意されまして、地域の中で市政発展のためにさらなる御活躍、御協力をよろしくお願いいたします。

さて、先日3月1日には福岡県内の公立高校の卒業式が行われました。私は、三井中央高校の組合議会議員として、三井中央高校の卒業式と閉校式に出席をいたしました。

三井中央高校は昭和38年に開校した筑豊地区唯一の女子高でもありましたが、今年の3月末で63年の長い歴史に幕を下ろしました。同校の卒業生は9,000人を超え、筑後地区はもとより、国内外の様々な分野で活躍されております。

同校の最後の85名の卒業生に、大山校長先生からのプレゼントとして歌手のGACKTさんがサプライズゲストとして登場され、「野に咲く花のように」を熱唱されました。会場は一瞬にして歓喜の音が巻き起こり、そして「夢は見るものではない、夢はかなえるもの。そして、夢をかなえるには、それは強い意志を貫くこと。ここにいるみんなの未来に期待します。御卒業おめでとう」とのメッセージが送られました。85名の卒業生の胸に大きな思い出と勇気が湧いたことでしょう。私も85名の卒業生の前途に幸を多からんことをお祈りいたしました。

そして、今年は朝倉市市制施行20周年を迎え、大きな節目の年であります。新しい歴史がこの新庁舎からスタートしてまいります。これから、どんな朝倉市を目指していくのか、どんな魂を入れていくのか、市長のかじ取りは今後の朝倉市の将来にかかっております。

市長選挙の4月19日まであと1か月半ばとなっております。市長選挙に臨まれるその熱い思いと政策について、また、学校体育館の空調整備について、通告に従いまして質問席より質問してまいります。市長をはじめ、執行部におかれましては、明快なる回答、よろしくお願いいたします。

(15番大庭きみ子君降壇)

○議長（小島清人君） 15番大庭きみ子議員。

○15番（大庭きみ子君） それでは、通告に従い、質問をさせていただきます。

冒頭でも述べましたが、朝倉市は新庁舎が今年の1月に開庁し、市制施行20周年という大きな節目を迎えております。これから、まさに次の時代に向けた新たな市政運営の方向性が問われております。市民の皆様は、これから朝倉市がどのように発展していくのだろうか大変期待をされております。

午前中、中島議員からも一般質問があり、かぶるところもございますが、公平公正な立場から伺ってまいります。

現市長が次期市政において本市が目指す町の将来像、いわゆるビジョンについてどのような姿を描いておられるのか、市長の考えをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 選挙に向けてのマニフェストについてのお尋ねになろうかというふうに思いますが、この議場では、市長選挙立候補者ではなく、市長として、大きな括りで可能な限りお答えをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

午前中、12番議員の回答と同じことになりますけれども、私は大きく、安全・安心の取組と地方創生を含む将来に向けた取組が重要だと考えております。

まず、安全・安心の取組についてであります。平成29年の大災害からは、国や県のような改良復旧事業などにより、赤谷川や桂川等の改良復旧も完了しております。市の道路河川等の公共土木災害復旧は全て完了し、農地や林道等の農林土木災害復旧についても、おおむねめどがついたところであります。寺内ダム再生は、水資源機構により着手され、佐田川改修整備は国が進めている現状であります。小石原川についてはまだめどがついていないという状況でございます。

小石原川、筑後川の治水能力向上に対する整備が、私はそこで課題であるというふうに認識をしております。また、地方創生を含む将来に向けた取組については、1期目では、平成29年の大災害への対応として災害関連事業に全力を注いだ関係上、大きく進展することはできませんでしたけれども、2期目では、災害復旧の進捗に伴い、地方創生をはじめ、様々な事業イベント等に取り組むことができた。将来に向けたふるさと朝倉づくりとして、この取組を加速させていきたいということを回答させていただきたいと思ひます。

そして、まさしく議員が言われましたように、市制施行20周年、これは大きな節目であります。過去にやっぱり感謝しながら、新しい朝倉市をスタートさせると、新たにスタートさせるという節目であります。

今、申し上げましたように、災害の復旧が大きく進捗いたしましたので、これから先は、新たに大きな課題であります筑後川全体の治水の問題、そして小石原川の安全性を向上さ

せるということが、私に課せられた大きな責務であるというふうに考えておりますので、これも大きな節目であるというふうに思っております。

そして、地方創生、人口減少抑制等につきましても、これも節目に来ている。いよいよこれから、今までまいた種が育ちつつありますので、このことを大きく花を咲かせていくと、そのことに頑張っていくと、その時期に今、まさしくあるということで、節目として考えておりますので、今、申し上げたことについて全力で頑張っていきたいと思います。

一つだけこれというようなことじゃなくて、市民生活を考えたときには、安全・安心もあるし、子育てもあります。それから教育の充実、これも極めて大事。そして、働きがいがあるような職場環境を、行政としていろんな関係企業等と協力しながらつくっていく。福祉、医療、介護、これはまさしく人が本当に安心して暮らしながら、老後を充実させながら生きがいを持って人生を終わると、これも極めて大きなことであります。

極めて多岐にわたりますので、これということではなくて、いろんなことで一步一步取り組むということも大事でありますので、課題についてはそれぞれをしっかりと俯瞰しながら、かつ、いろんな御意見もいただきながら、そして現場をしっかりと捉えて対応していくということで考えております。

答弁が長くなりましたけれども、極めていろんなことをせないかんという思いが非常に強いものですから、ただいまのようなお答えをさせていただきました。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当に、朝倉市は課題が山積しておりまして、一言で表すというのは本当に難しいことだと思います。

今、たくさんの思いをお聞かせいただいたんですが、今後の市政運営において、特に重点的に取り組む政策分野としては何でしょうか。今、たくさんいただきました。例えば、人口減少、少子高齢化への対応、また子育て、教育環境の充実、地域経済の活性化、防災、減災、災害対応体制の強化、職員体制や行政運営の持続可能性などなど、たくさん課題がございます。

この中で、次、市政を担うとして、どのような順番、位置づけになってくるのか。まず、そのあたりの重点的な政策分野から少しお話をいただける、お考えをお尋ねしたいと思います。お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 12番議員にもお答えの中で発言をさせていただきました。まさしく、朝倉市は3つのダム建設を受け入れて、そしてこれが完成をしている。このダムが、治水の面でも利水の面でも、あるいはこれからしっかり取り組むべき環境を考えたときのダムの利活用を、我々で考えて事業をしていただいております国土交通省、事業を承継受けている水資源機構、そしてまた、これは農業にも関係があります。飲み水にも関係がある。ほかに工業用水もある。そして、県南地域、佐賀東部地域の飲料水、福岡市、ここか

ら福岡都市圏の生活、命の水として、これからもダムは貢献をしていく必要があります。

3つのダムをさらに有効に活用して、将来の朝倉市の経済面それから環境の面、そして広域連携も含めた朝倉市の人口減少の中でのいわゆる関係人口、活動人口、そういったものに大きく寄与してくれるという考え方を非常に強く持っております。

これら今、申し上げたことについて、これまでの経験、そして今、つくり上げております信頼関係を持った各水道事業団、それからダムを建設をした国、そして国から、国土交通省から事業承継を受けて維持管理をしております水資源機構、そういった関係機関と、さらには当然のことながら福岡県の各部署と、私が申し上げましたことについて今、理解をしていただいているということがありますので、このことをしっかり生かしていく。

遠くの先のことになる課題もあります。当面、急ぐ問題もありますけれども、いずれにしても朝倉市の財産でありますから、この財産を使って、安全・安心な朝倉をしっかりつくっていく、守っていくことをはじめ、申し上げましたように経済面、そしてまた関係人口、これからの朝倉の朝倉創生ということで言わせていただくなれば、新たな朝倉創生の芽をしっかりと育てていく。大事なことであり、こういったことが一つあると思います。

もうちょっとお話しさせていただきますか。ちょっと、今度は人ですね。人がやっぱり大事です。特に、午前中は12番議員とのやり取りの中で人材育成といったことを少しだけ話をさせていただいたと思います。

やはり、これからの社会は女性そして若い人、この活躍がなければ、社会全体あるいは地域においても、恐らく持続可能な形で地域がやっぱりしっかり守られるという視点、それから役割を今から老若男女を超えてやる必要もあります。年齢を超えてやる必要もありますので、こういったことについて女性、若者の皆さん方の活動あるいは生活の支援、そういったものが非常に大事であるというふうに思います。

それから、12番議員のお話の中でダブると思いますけれども、やはり市の職員がいろいろな考えを持って、学校から出てすぐ就職する職員も当然、昔は多かった。けど今は違っています。今は採用年齢も非常に幅広くしております。これは、朝倉市に限ったことじゃなくて、これは国のほうもそうです。それから都道府県レベルもそうです。市町村も同じような形で今、動いています。

ということになりますと、考え方も非常に多岐にわたっています。いわゆる、1回就職したら、会社であるいは市役所で定年まで迎えるという考え方はもちろん通用もしないし、職員自体も考えていないというふうに判断をせざるを得ないということも含めて判断をしております。

こういう中で、やはり、ちょっと言葉に気をつけて話しますけれども、これはやっぱり朝倉市を引っ張ってくれる優位な人材です。優秀というよりも優位な人材をどんどん獲得をして育てて、育ててもらって、そして朝倉を引っ張る。各方面で引っ張っていただくような職員を育成する。これは、研修もいろいろありますけれども、これも必要。人事交流も

極めて大事だと私は思っています。

今の観点から、これまで行政同士は久留米市と職員交流をずっと続けております。それから、新しく始めたのは国です。デジタル庁に職員を2年間派遣をしまして、これが今度の3月で一応、帰ってくる。そしてまた、今度は新しい職員を派遣しようというふうに今、考えております。それから、福岡県にはこれまで人事交流を含めていろいろやってきておりますし、一方的な派遣もさせていただいております。

新たに、先ほど申し上げた面から言えば、朝倉市は水に関係すること、ダムに関係することが極めてこれから大事であるという考え方から、水資源機構との人事交流を現在、考えております。

それから、九州地方整備局等、国との人事交流あるいは派遣、もうどうなるかまだ分かりませんが、これを具体的にやっていくということにしております。

これは、これからの朝倉を考えたときに非常に大事なことだということでお話をさせていただきました。

あとは、まだいいですか。やはり朝倉のこれから将来を考えたときに、そして現在、秋月、全国藩校サミットを終えてというお話をいただきました。これを考えたときに、やはり教育の環境をよくする。もう、いろいろと議員の皆様方からも御指導いただきまして、遅れておりました洋式トイレの洋式化はあと少しでも中学校でやってしまいますので、その次はやはり体育館の空調設備を、もう、今検討に当然入っていますので、これやるということと、1つは藩校サミットこれで終わりではないというのは私も非常に強く思っております。あれはスタートだということになりますと稽古館、全国藩校サミットで全国から来た藩校関係者をはじめ、来賓皆さん方、あるいは市内の来賓の皆様方も感激して聞かれた秋月中学校の生徒の稽古館の教を朗読をしましたよね。あれは、やっぱり朝倉市のこれまで育んできたそれぞれの学校を厳然とする特色ある学校を今まで先輩たちが、教育関係者の皆さん方が、あるいは地域の皆さん方と一緒にやって残されてきております。それを今の学校関係者、校長先生や先生方、地域の皆さん方と一緒に、これ守っていただいていますので、これを全面的に頑張るやろうと。それを行政としては応援をしていくということで考えています。

私は、今、6中学校で今考えておりまして、小学校ちょっと数が多すぎるというかなってしています。6中学校で考えたときに、それぞれの学校にはやっぱりそれぞれの歴史を踏まえた、それこそ歴史・文化、それから郷土が生んだ人物、そういったことも含めて、それを大事にしながらまだ残していただいて、現在、非常に難しい教育の環境の中でもそれを守っていただいていますので、これをこれからの朝倉市の教育は日本一だよと言われるぐらいの気持ちでやっていきたいなというふうに考えております。どうなるか分かりませんが、議会の皆様方もおそらく御理解をいただけるものというふうにも思いますし、そして、いろんな提言を、今までいろんな実績を持たれた議員の皆様ばかりでありますの

で、そういったことに御助言をいただいたり、やはりそれぞれの立場を踏まえながら、議会と議員と我々行政と、それをしっかり踏まえながら、かつ朝倉の将来を切り拓いていくということが私の考え方でもちろんございますので、「我共にあり」というのが私の災害に向かったときの考え方であります。我共にありと、これを基本といたしましてしっかり頑張ろうということで考えておりますので、どうぞよろしく御指導をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。今、市長が今まで2期8年間大変な御苦労をされて、災害から復旧・復興、そして大きな困難を乗り越え、これからさらに朝倉市の将来を切り拓いていくという決意をお聞きいたしました。また、財政面については、明日、実藤議員がまた質問をされますので、私も今、市長が申された中でやはり私も人、また、まちづくりは人づくりだと私も思っております。先ほど人づくりと言われました。本当に人が育ち活躍できるまちになってほしい。また、安心・安全が生まれれば挑戦が生まれ、未来につながっていくと思っています。教育も、子育ても、防災も、産業も、全ては人を起点にして考えることが大事だと思っております。ぜひとも、歴史と文化、自然、環境に恵まれた朝倉市を住み続けたい、そして若い人に選ばれる、そして子育て世帯の方が住みやすい、子育てしやすいまちになるように、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。この質問はこれで終わらせていただきます。

次の質問に移ってまいります。それでは、次の質問は、学校体育館空調整備と国庫補助制度の活用について質問したいと思います。

近年、豪雨災害や地震など全国で自然災害が頻発しております。朝倉市でも平成29年九州北部豪雨災害に見舞われ、甚大な被害を被っております。いまだに復旧・復興のさなかであります。当時11か所避難所が開設されておりました。多いときには1,200人からの方が避難を余儀なくされておりました。また、仮設住宅が設置されるまでは2か月以上に及んで避難所で生活されております。当時7月から8月にかけては大変な暑さであり100人近い市民の皆様が密着して避難所の中で生活されており、大変むし暑い、そして熱中症にならないかと心配をしておりました。

この学校体育館は、地域住民にとって最も身近で重要な避難所であり、まさに地域防災の要であると考えます。また、同時に体育館は日常においては子どもたちの学習や活動の場として欠かせない教育施設でもあります。

そこで、朝倉市における小中学校体育館のうち、空調設備が整備されている施設の数と整備率についてお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 市内の小中学校17校ございます、全て体育館を持っておりますけれども、全体育館空調の設備はなく、空調整備率につきましては現在のところ0%と

なっております。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 残念ながら、朝倉市は空調設備は全くないという現状でございます。今、学校のこの体育館の空調整備の導入に活用可能な国の支援制度について、国土強靱化推進室や文科省が出している空調設備臨時特例交付金とか様々な交付金が今出ておりますが、そのことについて御説明お願いいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 空調整備に活用できます財源につきましては、国の補助事業といたしまして、先ほど議員が申されました空調設備整備臨時特例交付金、これがございましたけれども、現在は学校施設環境改善交付金、そのメニューとして小中学校体育館の空調整備事業がございます。これにつきましては、国庫補助率が2分の1で、断熱性の確保が必須条件になっているということでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） これに関しましては、令和4年6月3日、国のほうから県への事務連絡文書が出ております。令和4年度予算において約4.6兆円の関係予算を計上するなど、防災・減災・国土強靱化に関する取組を強化しています。学校体育館は子どもたちの教育・生活の場であることはもちろんのこと、災害時には避難所としての活用が期待されることから、令和2年10月には学校施設における防災機能強化への協力について適切な対処及び周知をお願いしていたところです。しかし、学校体育館の空調設備の導入は、国土強靱化の観点からも重要な取組であるものの、導入に向けた検討が十分に進んでいない地方公共団体が多いことから、改めて学校体育館の空調整備の導入に活用可能な国の支援制度について御案内いたします。

防災部局と教育委員会関係部局が連携し、学校体育館への空調設備の導入を推進していただくように市町村に周知のお願いがっております。例えば、今、御紹介ありました文科省からの空調整備臨時特例交付金ですが、またほかにも緊急防災・減災事業債とか学校施設環境改善交付金、また、特別交付税など、かなりこれは一般財源30%で国からの助成が出るという、緊急防災・減災事業債とか、かなり有利な交付金が今発行されております。各自治体は今こういう交付金を、事業債を使って計画が進んでいるところです。かなり国のほうもこの現状を見て早く推進していただきたいということで、令和6年度補正予算は779億円ついております。まだまだ普及率が20%しかないという現状でございます。この令和6年度の補正予算779億円の中には、この現状として挙げられているのが、これ令和6年度についた補正予算ですけれども、現状は子どもたちの学習・生活の場であるとともに、災害時には避難所として活用される学校体育館等について避難所機能を強化し、耐災害性能向上を図る必要がある。しかし、学校体育館等における空調設備率は約2割にとどまっております、さらなる設置促進が必要な状況であるということで、事業内容として学校施設の

避難所機能を強化し耐災害性能向上を図る観点から交付金を新設し、避難所となる全国の学校体育館への空調整備を加速する。これは、空調設備整備臨時特例交付金、これは交付率が50%であります、令和6年度から15年度までの期間限定となっております。こうい
う、今、国のほうもたくさんの交付金を準備して設置促進を図っているような状態であり
ます。

次の質問をしたいと思いますが、この防災の観点から、学校体育館は指定避難所として
位置づける中で、夏や猛暑時における避難所運営において空調整備は不可欠と考えますが、
本市では体育館の空調整備を地域防災の観点からどのように位置づけてあるのでしょうか。
市の認識をお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 防災交通課長。

○防災交通課長（古賀 守君） 内閣府より、令和6年12月に改定をされました、避難生
活における良好な生活環境の確保に向けた取組指針におきまして、避難所における生活環
境の整備や要支援者の配慮が求められているところでございます。

本市では、大雨等の災害には空調設備がある主要3カ所、ピーポート甘木、朝倉生涯学
習センター、杷木らくゆう館を第一段階として開設し、大地震などの大規模災害には被害
が広域的に及び被災者も増大するため、学校体育館も避難所として開設することになり
ます。

防災場といたしましては、近年の夏場の気温が高温になる気象状況から、子どもたちの
安全と災害時の避難所環境の向上、災害関連死の防止のため体育館の空調設備の整備を検
討すべきと考えているところでございます。

トイレ、温かい食事、入浴、プライバシー確保といった総合的な避難所環境の整備と合
わせまして、空調設備の整備は重要な柱として考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。空調整備は重要な整備だと考えている
というお考えをお聞きいたしまして安心いたしました。本当に、避難所となる体育館が暑
かったり寒かったりすると避難をためらう人もいます。実際に、平成29年の九州
北部豪雨災害のとき、「避難所に行くぐらいならここで死んだほうがよか」といって犠牲
になった方もあったと聞いております。まちが自信を持ってここに避難してくださいと言
える環境を整えるのが避難所施設に求められる重要なことだと思っています。

それでは、教育環境の視点からお尋ねをしたいと思います。また、体育館は学校体育の
授業や集会、学校行事など、子どもたちが日常的に利用する学習環境でもあります。猛暑
化における教育活用の影響を踏まえ、体育館空調設備を教育環境の改善としてどのように
捉えられているのでしょうか。市の考えをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 教育の観点から申し上げます。小中学校の9年間、これは児

児童生徒が学習し生活する大切な時間であります。その中で、学校体育館は授業だけではなく全校集会、遊びの場、部活動ほか社会教育活動など幅広く活用されている空間でございます。児童生徒の健康で安全な学校生活のために、体育館の空調を整備し環境改善を図っていく方向で検討を進めているところでございます。また、これによりまして教員の負担軽減にもなりまして、学校全体として授業運営など教育の質の向上にもつながるというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 教育環境の改善として捉えているということで、前向きな答弁ありがとうございます。

私は、今年の1月に宗像市の玄海小学校に視察に行つてまいりました。この宗像市は全校、小中学校21校全てが空調整備が整っているところでございます。本当にそこに、玄海小学校に行ったんですが、その先生方の話では、夏の7月は2時間限までしか外で体育ができなかった。体育館も暑くて何度も休憩を取らせないと続けられない。子どもの集中力が持たず、授業がまともに成立しなかった。空調をつけてからは年間を通して活動ができるようになったそうです。夏は体育館が取り合いになるほど、冬も厚着をせず動きやすい格好で体育ができる、学校行事も利用されるので卒業式でも底冷えが指摘されていたが寒さを気にせず落ち着いて参加できると喜ばれているそうです。暑さ・寒さを気にせず授業や行事を行えるので、教育活動に専念できるようになって先生のストレスが少なくなった、子どもにどんな力をつけさせいかに育てていくかを考えられる教育環境を整えてもらって本当によかったとのお話をお聞きしました。

体育館空調の目的は熱中症対策として体育館を快適な温度に保ち、熱中症を予防し、子どもたちの安全を守りながら運動できる環境を確保することと、避難所の環境改善として、災害などで避難してきた地域住民が暑さや寒さのストレスを感じることなく安心して過ごせる環境をつけることが大事であります。

宗像市小中学校では、令和3年12月に小中学校体育館に空調導入を宣言されています。それは伊豆美沙子市長なんですが、選挙の公約としても書かれてあったそうです。しかし、先進的な取組で、今、全国から視察に来られているということで、年間100件ぐらい視察がありますということは、なかなか視察もできないぐらい多い状況でありました。この伊豆市長が英断で、子どもたちのためには全校この空調設備をしたいという強い思いで、これが実践されておりました。しかし、この空調整備をつけるのもかなり時間が要するんですね。調査研究は、やっぱり1年半かけてあります。ただ、冷やすだけではないけない。ただ、クーラーをつけるだけではないけないということで、いろんな実験、検証をされたり研究されております。まず1校モデル校として整備をされ、令和7年3月には全校20校は全て体育館空調が完了しています。しかし、スピードをもって完了されているんですが、それでも4年近くかかっております。ということは、結構、研究調査というのがかかってお

りまして、この国の制度が令和16年度までの補助金ですので、早めに計画をして進めていかなければ間に合わないのではないかと考えております。この体育館空調方式の4種類、比較を検討して熱電方式や省エネで経費のかからない方法を検討されています。宗像市で採用されているのは空電式輻射パネルとエアコンを併用したシステムです。これは立ち上がり早いエアコンに効果を増幅・持続させる輻射パネルを組み合わせたものであります。これは特許を取られているものであります。このように、例えば冷房の場合、エアコンの冷媒ガスがパネルで循環することでパネルが冷え、その冷えたパネルは管内の熱を吸収して室温を下げる。暖房についても音や風を抑えられる上に、無風でも床付近まで温かさが感じられます。交換や電気代、ガス代などの経費、ランニングコストなど、このように広い体育館の空調には研究が必要です。この防災拠点機能の強化と子どもたちの教育環境の向上という両面から、今後、学校体育館の空調整備をどのような方針で計画的に進めていくのか、市の今後の整備方針についてお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 先ほど、議員のほうで16年と言われたと思いますけれども、この交付金の補助のかさ上げがあるのが15年度までということになっております。空調につきましては、先ほど補助金ですとか、議員のほうから緊防災のお話もございましたけれども、財政的な有利な財源を活用しまして、避難所としても活用される体育館の空調整備を今後も検討していきたいということでございます。

現在、市長の指示を受けまして空調方式などの検討を進めている状況でございます。補助事業等の期限もありますことから、できるだけ早期に方針を決めて皆様にお示しをしたいというふうには考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。6年から15年までの事業の交付金でありました。15年には完了ということになると思いますし、ここの宗像市の玄海小学校で実際視察をさせていただいて、本当にいろんなやっぱり研究がなされているなというのを感じました。あらゆる方面から検討されてあるんですが、それにすごい技術者の方がいたり、職員もきちんとした方が技術職として入っていらっしゃいます。そういう体制がないとなかなかこれは本格的に進められないのではないかなというふうにちょっと考えたところでございます。だから、その体制づくり、まずは庁内の連携、例えば教育委員会だけではなく防災課とかの庁内の連携や整備体制をどのように構築していくのかということをお大事なことだと思っておりますが、その辺りはどのようにお考えでしょうかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 学校体育館の空調整備には、大空間でございます体育館の構造を踏まえまして効率的な空調方式の検討が必要でございます。これに対しまして、議員の言われますとおり専門的な知識、技術が必要となってきます。市の技術職員の数は限り

がございます。今、トイレの洋式化の工事も実施しているような状況でございます。職員体制や工法につきまして、十分研究していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 十分検討していただきたいと思うんですが、やはりこうスパンが決まっています。15年までにはこの交付金制度が終わりますので、それまでに完成させるということで、やっぱりそれはスケジュールを作っていないとなかなか進んでこないものだと思っております。今、トイレの洋式化も大変力を入れていただいております。ところでございますが、本当に夏の暑さの熱中症対策というのは、学校の先生もそうですが、子どもたちも大変な負担になっております。そういう中で、ぜひ早く実現をしていただきたい。この宗像市も市長の恐らくマニフェストに入っていたことだと思います。すごい英断をされて全校につけるといふ、そういう英断を下しておられますので、ぜひ、私も早く市長にもそのことも含めて、マニフェストに入れていただきたいなと思っております。

先ほど少し市長にも触れていただきましたが、そのあたり市長のお考えはいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今日、一番初めにお話しさせていただきましたように、選挙、具体的なことに関しては差し控えさせていただきたいと。市長というようにございしますので、今、議員が言われましたように計画的に、そしてまた、遂行するための枠組みというようにことはお聞きをしましたので、しっかり考えていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ぜひとも、体育館空調整備は防災対策であると同時に教育施設整備でもあり、横断的な取組が必要となってまいります。人手不足、とりわけ技術職員の負担が大きい現状を踏まえ、庁内連携や整備体制をしっかりと構築していただきたいと思っております。そのことも踏まえて、ぜひ検討していただきたい。そしてまた、防災面の強化に加え教育関係の改善も重要な目的の1つであります。夏の授業や部活動でも暑さで子どもたちの集中力が続かないうえ、熱中症に配慮するのが大変でしたという先生たちのコメントが来ております。小まめに水分を取らせたり、生徒の顔色を確認したり、導入後はそういった先生の負担も宗像市では負担が軽くなったと聞いております。部活動では練習試合の申し込みが殺到しているということでもあります。国や文科省からの補助金を早く活用して、少しでも早く安心・安全な教育環境を整えていただきたいと考えていますので、よろしくお願いをいたします。

少し時間が早めに終わってしまいましたので、1つだけ、先ほど聞き忘れていたことをちょっとお尋ねしたいと思いますが、市長のほうに、今、甘木駅周辺整備基本構想というのが令和7年1月にできておりまして、そのことについて、今この朝倉市も新庁舎ができ

て甘木駅周辺までこの一帯をにぎわいのあるまちづくり、歩いて暮らせるまちづくりとして基本構想を出していただいております。これの推進について執行部のお考え、また、市長のお考えがあればぜひお聞きしたいと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 私のほうから今の状況について触れさせていただきたいと思います。

甘木駅周辺整備事業、これは今、福岡県のほうが進めております国道322号の道路事業と一緒にやっていこうというふうな考えを持っております。現在はこの道路事業の進捗としましては、西鉄の甘木駅舎をどういうふうに進めていくのかということで、県のほうでそこら辺の今後、西鉄と話をしていく上での方策を今、検討されている状況でございます。それが済みましたら、また実際、先方のほうと協議をしながら、実際どうやっていくのかというところを具体的に進めていく前段の状況ということでございますので、そういった状況であるということをお報告させていただきます。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。今、本当に九州北部豪雨災害でこの開発が凍結いたしておりました。ようやく今、新庁舎ができて、新しくこのまちづくりがこれから始まってくるのではないかと大変期待をしているところであります。

この計画が目指しているのが、コンパクト・プラス・ネットワーク型のまちづくりを提言しているんですけど、ぜひ、こういうコンパクト・プラス・ネットワークが、人が交流できる、そして動きながらいろんな人と交わっていける、こういうまちづくりを実現していただきたいと思っております。これから少子高齢化または人口減少に対応するために、持続可能な行政サービスと暮らしやすさを両立させる考え方になりますが、この計画について市長もぜひ力を入れていただきたいと思いますと思っているところでございますが、そのあたりの考え方がありましたら、お答えいただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 新庁舎建設と甘木駅前との関連をつけた地域活性化、これについてはこれまでも議会でも御質問いただいたりしていますし、また、その答弁の中で私もやはり、答弁の中か市政方針、そういったことで話はしているんだろうと思います。それだけ極めて大きな今後の朝倉市の地域発展、交通結節点、こういった話は随分したんだろうと思います。交通結節点である両線の甘木駅ですね。それと人の動き、それを考えて今までの今議会での質疑の中にもありましたけれども、やはりこれから先の人口減少を抑える大きなエリアになるという考え方が1つあります。それから、福岡県と西鉄が今、協議をずっと行っております。ちょっと長いかなというのが私の実感です。考え方をそれぞれ確認すると、西鉄のほうはまだしませんけれども、福岡県は必ず道路事業としてやると、動いていくと。西鉄との交渉も県土整備事務所だけではなくて、県として動いていくとい

うふうに今聞いておりますので、とにかく早く話を進めていただくということと、それと答弁してはいますが、甘木駅に御協力いただいて、西鉄に協力いただいて、そして南側にという話で動いていくと思うんですよ。そこに本市がこれからの地域づくりの拠点、あるいは若い人たちがちょっと寄るような拠点、それを作るというのと、あのロータリーを活用した甘木駅から次の、例えば市内循環線というようなことも当然、今もありますけど、秋月方面といろんなことがありますので、その拠点としてタクシーもそうです。送迎もそうですけど、そういうふうな整備を今からやっていきます。

とにかく322号線も東からずっと整備が道路事業として協力していただいたところは随時工事も県のほうでしていただいておりますので、とにかくできるだけ早く、そして形が見えるような動きに早くしていただくということ等も含めて努力をしていきたいと思っております。ぜひ御協力をよろしくお願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当に大きな課題がまた1つ残っているなと思っております。新庁舎が立派に新しく建ちまして、これからの甘木駅周辺のまちづくりが進んでやっこの目的を達していくのではないかと、この地域のにぎわいづくり、活性化につながっていくのではないかと。そうすると、またいろんな商業施設も入ってまいりますし、若い人たちも戻ってくる。よければここで交流人口も増えて定住していただければありがたいなと。1つの、この朝倉市の発展の基盤に、起爆剤になるのではないかと私は期待をいたしております。その点も含めて、今後ぜひ市のほうも全力で県のほうにもこの前相談、要望に行っていました、ぜひ市のほうもしっかりと取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

これからの朝倉市、また20年を過ぎまして本当にこれから新しい魂を入れていかなければならない時期になっておりますが、本当に発展をしていく、誰もが住みやすい、安心して暮らせるまちづくりができますように、今後ともよろしくお願いをいたします。

これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 15番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時20分から再開します。

午後3時8分休憩